# 平成30年度　大田区立蒲田小学校　自己評価　報告書

平成31年3月1日

○　本校の概要

大田区立蒲田小学校は、羽田空港や多くの外国籍の方々も暮らす町として国際化の進む地域にあり、平成30年度は、通常学級16学級、特別支援学（固定3学級）、日本語学級（通級）3学級を併設している。来年度には、開校140周年を迎える伝統のある学校として、地域の方々に支えられ、保護者も学校に協力的である。

また、平成15年度から、東京都教育委員会指定の人権尊重教育推進校として取り組んでおり、校内研究において各教科と人権課題、日常的な指導から人重教育を推進している。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | | 成果評価 | これまでの取組<br>今後の改善策 | 学校関係者記入欄<br>コメント |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学力向上 | 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 | 4：対象となる全学級（全教員）で行った。<br>3：80%以上で行った。<br>2：60%以上で行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 「学習中、友達の話を集中して聞こうとしていますか」と「学習中自分から進んで話をしようとしていますか」 | 4：87%以上<br>3：77%以上<br>2：67%以上<br>1：67%未満 | 2 | 校内研究として、国語科で「話す・聞く・話し合う能力」を高める手だてを考え、全学級で取り組んだ結果、「友達の話を集中して話を聞こうとしている。」と答えた児童の割合は86%で昨年度のよい状態をほぼ継続させることができた。友達の考えと比較したり、友達の考えを聞いて自分の考えを深めたりすることができる児童が増えてきた。<br>一方で、「学習中自分から進んで話をしている。」と答えた児童の割合は64%であり、集中して聞くことが積極的な発話には結びついていない。<br>学校公開の保護者アンケートで「児童一人一人の活動が充実している。」と答えた保護者の割合は97.6%と高いため、対話的な学習の機会を増やしていくことで、互いに意見を言い易い学級風土を醸成していくことが次年度の課題である。<br>また、これまで本校が継承してきた人権尊重教育をさらに充実させるとともに、教員の授業力向上を重点テーマとして研究を深め、切磋琢磨していける教員集団にしていく。 | ・成果評価は「低い」との印象。「話を聞く」ことは継続的に高い評価を維持していることをもっと評価すべきだと思います。3が妥当と思います。<br><br>・学力向上は、児童だけの力で行えるものではないので、教職員の資質向上が一番大きな成果を生むので、ぜひ教職員の資質向上させていただいて、目標を達成してください。 |
| | | 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 | 4:学期に2～3回知らせた。<br>3：学期毎に知らせた。<br>2：年度間に1回は知らせた。<br>1：お知らせできなかった。 | 3 | | | | | |
| | | 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 | 4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。<br>3：80%以上の教員が働きかけた。<br>2：60%以上の教員が働きかけた。<br>1：60%以下の教員が働きかけた。 | 4 | | | | | |
| | | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上が回答した。<br>2：60%以上が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 3 | | | | | |
| | | 授業改善推進プランを、授業に生かす。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上が回答した。<br>2：60%以上が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 3 | | | | | |
| | | 校内研究として国語科、特別活動（学級会）、人権課題（道徳、総合的な学習の時間）の教科・領域で、人権教育を通して付けたい資質・能力を高める。 | 4：全教員が行った。<br>3：90%以上の教員が行った。<br>2：80%以上の教員が行った。<br>1：70%未満であった。 | 4 | | | | | |
| 豊かな心を育む | 子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。 | 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 | 4：全教員が行った。<br>3：80%以上の教員が行った。<br>2：60%以上の教員が行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 「自分にはよいところがありますか」の児童の「ある」の割合 | 4：85%以上<br>3：75%以上<br>2：65%以上<br>1：65%未満 | 3 | 成果指標にある「自分には良いところがある。」と答えた児童の割合は80%であり、昨年度より8%上昇した。<br>縦割り班活動やクラブ活動、委員会活動など異学年が関わる場面において、上学年には下学年のお手本となれるよう指導し、下学年が上学年に憧れの気持ちを抱くようになったことで、高学年の児童を中心に「自分は学校や友達の役に立っている。」という充足感を味わわせることにつながった。<br>また、昨年度の学校評価で頂いた「小さな成功体験を積み上げてほしい。」との願いを実現すべく、全校朝会での校長の話では、具体的な姿を示して良さを認めたり、地域や保護者の皆様から頂いたお褒めの言葉を伝えたりする機会を多くもった。児童の何気ない小さな行動に価値付けをし、成功の体験として自覚させることにつながった。<br>さらに、今年度は「ハッピーフライデー」として、金曜日に各学級で「言われて気持ちの良かった言葉」を発表し合い、全校放送で共有した。またその言葉を階段に掲示したことで、よりよい言葉かけが増え、自己肯定感につながったともとらえている。<br>次年度は、「いつでも」「誰に対しても」「自分から」挨拶できる児童の育成に向けて、豊かな心を育んでいく。 | ・一番重要な自己肯定感の上昇は、大きな成果だと感じる。<br><br>・豊かな心を育むことも学力向上につながることですので、教職員の方々の改善とともに向上させてください。 |
| | | 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 | 4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。<br>3：学期に1回（年間3回）以上行った。<br>2：年度間に1回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 2 | | | | | |
| | | 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 | 4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 4 | | | | | |
| | | 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 | 4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 4 | | | | | |
| | | 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 | 4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。<br>3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。<br>2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。<br>1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。 | 3 | | | | | |
| | | 都の人権尊重教育推進校として、「外国人」「障害者」「同和問題」に関して、自分の大切さとともに、他人を大切にする児童を育成する。 | 4：全教員（全学級）で行った。<br>3：90%以上で行った。<br>2：80%以上で行った。<br>1：70%以上で行った。 | 4 | | | | | |
| 体力向上 | 子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。 | 新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 | 4：全教員で行った。<br>3：80%以上の教員で行った。<br>2：60%以上の教員で行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 体力テストの総合評価がC以上の児童 | 4：60%以上<br>3：50%以上<br>2：45%以上<br>1：45%未満 | 3 | 一校一取組について学期ごとに「持久走」「長縄」を取り入れ、強い精神の育成と体力の向上を図っている。また、各クラスにおいて、団結力とバランス感覚を養うために「長縄」強化週間、一層の「持久力」向上を図るために「持久走」強化週間を設け、児童の総合的な体力向上に取り組んできた。<br>また、今年度の新たな取組として、体育の授業の初めに校庭は【1～3年2周、4～6年3周】、体育館は【1～3年3周、4～6年5周】<br>走ることを決め、年間を通して継続して取り組んできた。<br>しかし、平成30年6月実施の体力テストにおいては、成果指標にある「体力テストの総合評価がC以上」の児童の割合が52%であり、6月の段階では成果としてはまだ表れていなかった。<br>次年度の体力テスト（6月実施）の結果を見て、この取組の成果と課題を洗い出し、より体力が高められる方法を探っていく。 | ・成果はまだ出ていないが持久走の継続は良いことだと思います。また、楽しみながら体力がつく遊びを取り入れてほしいです。<br><br>・朝遊びに加え、朝マラソン的なこともできれば、個人的に参加し、毎回無理なく2周、3周とまわることもできるのでは・・・？<br>（学校の取組、もしくは朝遊びの取組として・・・）<br><br>・体力向上は計画性をもって実施してください。 |
| | | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 | 4：全教員で行った。<br>3：80%以上の教員で行った。<br>2：60%以上の教員で行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | | | | | |
| | | 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 | 4：全教員で行った。<br>3：80%以上の教員で行った。<br>2：60%以上の教員で行った。<br>1：60%未満であった。 | 3 | | | | | |
| | | 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 | 4：全教員で行った。<br>3：80%以上の教員で行った。<br>2：60%以上の教員で行った。<br>1：60%未満であった。 | 3 | | | | | |
| | | 通年で大縄跳びを実施していくことで、体力の向上を図るとともに、技能の向上と学級集団として協力し合う気持ちを高める。 | 4：全教員（全学級）で行った。<br>3：90%以上で行った。<br>2：80%以上で行った。<br>1：70%以上で行った。 | 3 | | | | | |
| 教育環境向上 | 教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。 | 授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 「学習環境が整っている」の割合 | 4：92%以上<br>3：87%以上<br>2：82%以上<br>1：82%未満 | 4 | 学校公開の保護者アンケートによる評価では、「学習環境が整っている。」と肯定的に答えた保護者の割合が98.6%と高く、年々上がっていることからも、学習環境が整ってきたことを保護者も実感していると思われる。<br>大田区の施策として全学級に配備されたスライドレール式電子黒板の効果もあり、教員が授業でICTを活用する機会が飛躍的に増加した。<br>今後は、ICTを活用した授業を見合ったり、研修会を行ったりすることで、「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業力としての活用方法を共有していく。<br>また、特別支援教室の巡回指導員と担任、特別支援教育コーディネーター担当教員との連絡・調整を行い、児童実態把握票及び連携型個別指導計画を活用して校内委員会の充実（年間8回）を図っていく。 | ・若い教師の方が増え、電子黒板などの利用も増え、とてもよい結果だと思います。 |
| | | 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 | 4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。<br>3：学期に1回（年間3回）以上行った。<br>2：年度間に1回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 2 | | | | | |
| | | 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 2 | | | | | |
| | | 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 | 4：設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。<br>3：80%以上の正規教員が週1回以上活用した。<br>2：60%以上の正規教員が週1回以上活用した。<br>1：60%未満であった。 | 4 | | | | | |
| | | 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 | 4：月1回以上行った。<br>3：学期に2～3回行った。<br>2：学期1回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 3 | | | | | |
| | | 「学校からのたよりやホームページの情報で学校の様子がよくわかる」ように伝えている。 | 4：学年、学級だよりを全教員で発行、周知した。<br>3：学年,学級だよりを90%以上の教員が発行,周知した。<br>2：学年,学級だよりを80%以上の教員が発行,周知した。<br>1：学年,学級だよりを80%以下の教員の発行,周知した。 | 4 | | | | | |
| 家庭・地域の教育力向上 | 学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 | 4：月1回以上更新した。<br>3：学期に2～3回更新した。<br>2：学期1回以上更新した。<br>1：更新しなかった。 | 3 | 学校からの情報で学校の様子がよくわかると回答した保護者、地域の割合 | 4：92%以上<br>3：87%以上<br>2：82%以上<br>1：82%未満 | 4 | 学校公開の保護者アンケートによる評価では、「学校からの情報で学校の様子がよくわかる。」と肯定的に答えた保護者の割合が95.2%と高かった。多くの学級が「学級便り」を配布し、予定だけではなく、児童の活動や行動に価値付けをしてお伝えしているので、学校での様子が伝わっているとの評価につながっている。<br>今年度、ホームページが区の統一したレイアウトに変更された。ホームページの更新頻度を上げ、より多くの写真を交えて、児童の生き生きとした様子を発信していく。<br>今後も、学校支援地域本部をはじめ、地域との連携を深め、その力を最大限に生かしながら、140周年記念行事を盛大に運営していく。 | ・スマホを活用する親も多いので、ホームページの更新は重要な情報発信の一つだと思います。継続してほしいです。<br><br>・地域の行事の広報を児童たちにより多く伝えたいと考えています。よりよいつながり方で、地域で見守りたいと思います。個人個人の家庭での取組を、もう少し関心をもってほしいと思います。 |
| | | 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 | 4：毎回情報を提供した。<br>3：おおむね情報を提供した。<br>2：あまり情報を提供しなかった。<br>1：情報を提供しなかった。 | 3 | | | | | |
| | | 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 | 4：学期に2～3回行った。<br>3:学期1回以上行った<br>2：年1回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 3 | | | | | |
| | | 町会、区役所（防災課）と連携して会議を実施し、「学校防災活動拠点事業」のマニュアルの精査、夜間訓練等に取り組む。 | 4：マニュアル精査、担当者の訓練を実施した。<br>3：マニュアル精査まで実施できた。<br>2：町会、区役所との会議で協議できた。<br>1：町会、区役所との連携が図れなかった。 | 3 | | | | | |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数